

ITRI と公視が共創、 AI 手話キャスタープロジェクトで新時代のメディア環境を

工業技術研究院（以下：ITRI）は台湾公共放送グループ（公視）と連携し、台湾初となる AI 手話天気予報キャスターの開発を進めている。本日（9日）、両者は「AI 手話 幸福台湾」という記者会見を開催し、共同プロジェクトの進捗状況を発表した。この AI 手話キャスタープロジェクトは、早ければ来年下半期に本格稼働を開始する予定で、聴覚障害者が台風や地震といった災害情報をリアルタイムで把握できる全く新しい解決策を提供する。本プロジェクトは、平等な情報アクセスを目指し、社会的バリアフリーを推進する重要な取り組みとして注目されている。



写真説明：AI 手話キャスターの開発には、一般的な AI キャスター技術とは異なり、より高度な技術が求められる。ITRI は、高精度な手部骨格推定 AI 技術を活用して台湾手話データベースを構築した。この技術により、2D 映像の生成時に複雑な手話表現を正確かつ滑らかに再現し、自然な動作を可能にしている。

ITRI 取締役会長の呉政忠氏は、「テクノロジーの本質は常に人間性に根ざしている」と述べ、AI 技術が持つ社会的意義を強調した。また、「今回の協力は、すべての人が平等に AI 技術の恩恵を受けられるようにする普及型技術の象徴的な事例であり、特に聴覚障害者がメディアを通じて情報にアクセスする機会を広げることに大きく貢献するものだ」と語った。

一方、台湾公共放送グループ（公視）取締役会長の胡元輝氏は、「公視は常にテクノロジーを活用して、より多くの人々に寄り添うメディア環境を追求している」と述べ、特に災害時における情報提供の重要性を強調した。また、「平等な情報アクセスは現代社会における不可欠な価値であり、このプロジェクトがその実現に向けた重要な一歩となる」と期待を寄せている。

ITRI 副総裁兼情報通信研究所所長の丁邦安氏は、2023年よりAI手話翻訳システムの研究開発を進め、台湾手話データベースを構築した経緯を説明した。手話は視覚的な言語であり、手の動き、空間的な位置、さらには表情のニュアンスを正確に表現する必要がある。そのため、高度な骨格推定技術や深層学習モデルが不可欠であり、さらに専門の手話翻訳者や聴覚障害者との協力を通じて言語データを蓄積するプロセスが重要である。このプロジェクトは、情報平等の実現だけでなく、台湾手話の文化的な伝承という観点からも意義のある取り組みとなっている。

【当記事に関するお問い合わせ】

工業技術研究院 広報部

担当者：劉 家妤

電話：+886 (0)936-606-694

E-mail：KayoLiu@itri.org.tw